

# 2022年度OB/OG トップセミナーを聴講して

名古屋工業会理事 計測会顧問 大鹿秀正 (F47)

“学生就職支援事業” 2022年度OB/OG トップセミナーが2022年12月7日、NITech Hall (以下講堂) で、開催できた。対面での実施は3年ぶりで、第1会場の講堂には250名を超える学生に集ってもらい、同時中継の第2第3会場も含めると聴講学生は全部で520名以上です。希望する卒業生25名にはYouTube配信ができた。

東海地方の有名企業である東海テレビと中部電力ミライズの先輩から、ご自身の名工大生時代の思い出ほか、職業人としての体験・経験までユニークなエピソードがいくつかあった。社会人としての心構えから人生を考える貴重なヒントが、学生に届いたと思う。各講演のポイントをざらに読んでいただければ幸いです。2019年から4年間トップセミナーの企画と司会を担当した大鹿から、まとめの感想を最後に追加した。

(以下講演概要はYouTubeから一部抜粋して要約)

## <小島浩資様講演概要>

【司会】 早速ですが、「今こそ 人生を考える時。時間を無駄にしないために」と題しまして、東海テレビ放送株式会社社長の小島浩資様にご講演をいただきます。

小島様は、1981年に名工大計測工学科をご卒業、同年、東海テレビに入社。2019年には同社代表取締役役に就任されました。

2020年度の名工大トップセミナーの講師をお願いすることになっていたのですが、新型コロナウイルスの蔓延でトップセミナーが中止になり、延び延びとなりました。今回、満を持してご登壇いただきます。



写真1. OB小島講師 (YouTubeから)

### 【小島浩資氏】

ただいまご紹介いただきました東海テレビの小島と申します。

まず、このような機会をつくっていただいた名古屋工業会と大学に心から感謝を申し上げたいと思います。

## 1. 今の時間を大切に

このセミナーのお話をいただいたときに考えたのは、二十歳ぐらいの皆さんに自分は一体何を伝えたいのだろうか、もしタイムスリップして、私自身が皆さんの年だったとしたら、自分に何を言ってやりたいだろうかというふうに考えました。

そこで行き着いたのがこの演題です。時間を無駄にしないで、今の時間を大切にしてほしいということを皆さんに伝えたいと思いました。

社長になって3年になり、座右の銘をよく聞かれますが「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」と答えています。

マハトマ・ガンジーという有名な方の名言の一つです。これは、時間を大切に、その一瞬一瞬、今のこの時間を大切にしないとやっているのですね。明日自分が死ぬかもしれないという意識を持って生きなさいと。明日死ぬかのように生きていれば、今日こんなに苦しいつらいことがあっても乗り越えられる。たとえば、明日が来ないなら、今の自分にとって大切な楽しいことを思いっきり楽しもうと、美しいものを愛でよう。ある方は、冬の日には鶴舞公園を歩いている時、花を1つでも見つけたら、それに感動する自分でいたいというふうにおっしゃっていました。

こんな話は、当時、皆さんの年齢だったころには思いもしない話で、だからこそ皆さんに伝えたい。今の時間を大切に、無駄にしないでほしいと。本当に大切な時間にあなたたちはいるということ、60を過ぎた今だからこそ伝えたいと思っています。

もちろん講義にはちゃんと出てほしい。人生の大事な選択をするときに、今与えられた学問、学業にベストを尽くしておかないと選べないですから。

自分に問いかけてほしいと思います。何をしたいのか、自分はどこに行くのだろうと、自分の人生はどこへ向かっているのだろうと。皆さんの人生は、テレビ局風に言うと、皆さんが主役のドラマの出演者です。死ぬまで続くドラマですね。人生の中では様々な出会いがあります。それがどんなドラマになるのかは、皆さんの日々の生活、思い次第です。誰の責任でもない。自分の責任でその脚本なりシナリオはできている。皆さんの人生のドラマを素敵なものにしてほしいというふうに願います。



写真2. セミナー開始前、会場入りする学生(撮影：大鹿)

## 2. 卒業後

大学卒業後、私は会社という組織に入ることを選択しました。当時は当たり前でしたね。名工大生は世間から見ると“そこそこ”優秀ですよ。でも社会に出れば、東大卒の人もいれば京大卒の人もいる、そこに隣に机を並べてみんな一緒に働いて戦うわけです。

この“そこそこ”が大事ですよ。

会社に入って、“そこそこ”からスタートしたときに皆さんは、東大卒の人に負けることはありません。なぜなら社会で求められる頭のよさは入学試験を受けるときの学力ではないのです。

どうやって生き抜いていくかは皆さんの日々の努力と力次第ですね。

これは社会に出たら先輩はきっと同じようなことをおっしゃると思います。時代によっては求められるスキルは違いますが、変わらないのは**バランス感覚を大事にしてほしい**ということ。常にアンテナを高くして、いろんな情報を広い視野で見る。1つの目線だけで判断をすることを避け、全体のバランスを見ながら、俯瞰した目線で見える習慣をつけること。それはそんなに簡単じゃありません。

でもこれを積み重ねると、あいつは優秀だなあとなってきます。これは研究職であろうと営業職であろう

と、どちらにも共通する大切なスキルですね。社会に出た後、皆さんに求められるのは、そこです。

東海テレビも多様性に対応すべく動いていると申し上げましたが、多くの経営者が多様性は重要と言っています。必要なスキルとしてとても大事なのですね。

以前、私が東京で営業部長をしているときに部員に言っていたことがあります。まずは素直に聞きなさい。その後自分の色を出していきなさいと。先輩・上司のコピーになる必要はありません。どんな職業でも一緒ですが、その上司のコピーになってもどうしようもないですから。だから僕は、後輩に新人を指導するときには、教えるのはいいけれど自分を押し付けるなどというふうに頼んでいました。

コピーになったらその先輩なり上司を超えることはできませんからね。四方八方にアンテナを立て、いろんなことを考えている。様々な色の花があって、外から見ると東海テレビのあそのこの部はお花畑みたいでいいね、美しいねと言われる部隊になろうということを、常に言っていました。東海テレビで社長になった今も同じことを思っています。



写真3. 名工大講堂の学生席から(撮影：名工会事務局)

### 3. 社会で成功するために

いろんな事象に多様性を持って柔軟に対応していく、これは会社が生き残っていく必須条件だと思っています。

私はサラリーマンを選びましたが、中にはスタートアップ、ベンチャー系を立ち上げている人も多いですよね。

二十数年前にベンチャーを立ち上げ、IT系の社長で成功を収めて十数億の私財を持った人の話を聞いてきました。

彼は、高校を卒業して、2年専門学校に行った後、ある流通の会社の3,000人の営業の中でトップセールスマンになり、会社の役員から、経営企画の幹部候補生になれと言われたそうです。

彼はそのとき考えたそうです。これが自分の望んだ人生だったろうかと。自分は何者か、自分が何をしたいのかということ。

やっぱり違うという判断をして会社を辞め、友達の飲食店を手伝ったりしたらしいですが、手伝った中でインターネットに出会った。体が震えたそうです。これだと思って彼はしゃにむに、親戚を回ってお金を集めて、ベンチャー企業を立ち上げ、取りあえずホームページをつくったと。そのうちある企業からオファーを受け、ホームページをベースにした技術をほかの技術に広げていって会社を大きくしていったということをおっしゃっておいりました。

何が言いたいかというと、社会で成功するためには、組織人を選ぼうと個人起業をしようと、共通すること

はアンテナを高くして、頭を柔らかくしてチャンスをつかむこと。

チャンスは誰にでも来ますが、アンテナが立っていなければ分かりません。ぼーっとしていると目の前を通り過ぎてしまいます。ああ、あれがチャンスだったのかと 10 年後ぐらいに気づいてももう遅いですよね。だからそのチャンスを見逃さないためにも皆さんはアンテナを高くし続けて視野を広げていなければならないということです。そのためには、自分が何をしたいのか、何を目標としているかを考えていなければなりません。

もう一つ社会で大事にしておいてほしいことを言っておきます。

人を裏切らないことです。自分の人生のドラマに出演してくれた人たちを裏切ったりすると必ず自分に返ってきます。それを忘れないでおいてほしいと思います。

この2つ、アンテナと裏切らないということをお伝えしたいと思います。

失敗も反省もあってもいいと思います、それが人生です。でも皆さんに後悔はしてほしくないと思っています。

皆さんには自分の人生を考える時間を持ってほしいと思います。その時間は必ずあなたたちの人生で大切な時間になります。友達と酒、ビール飲みながらでもいいですから。今、二十歳のこのときに、私の人生は何だろうということを考える時間を持ってくれたら、ほかの人たちよりもツーステップもスリーステップも上に行くことができます。

私の話した言葉が少しでも、皆さんの頭に残ったのなら嬉しく思います。

皆さんのこれからの人生が実りある素敵なものであることを心から祈って私の話を終えたいと思います。ご清聴有難うございました。（拍手）

※小島講師への学生からの質疑応答(略)の詳細はごきそ 2023 年 3-4 月号を参照ください

## <石川民子様講演概要>

### 【司 会】

お二人目のご講演に移らせていただきます。

「磨くのは技術だけじゃない～社内初の女性執行役員になるまでのキャリア奮戦記～」と題しまして、中部電力ミライズ執行役員の石川民子様にご講演をいただきます。

石川様は、1988 年、情報工学科をご卒業になり、当時の中部電力株式会社のシステム部門に入社されました。2015 年には岐阜支店で女性初の営業部長、それ以外にも先端技術応用研究所長、現職は家庭向け販売戦略などシステム分野以外に様々な分野をご経験されていらっしゃいます。



写真 4. OG 石川講師(撮影：名工会事務局)

## 【石川民子氏】

中部電力では、電力システム改革への対応として送配電部門を分社するタイミングで、今後電気・ガスなどのエネルギー以外の新たなサービスや新事業を起こしていき、速いスピードで展開してくため、経営判断のスピード化などを目的に2020年に販売事業を分けた。それが中部電力ミライズという会社になります。お客様と一緒に未来図を描いていきたいという思いを込めて中部電力ミライズと名付けられました。

少しだけ中部電力のダイバーシティの現状というものをご紹介しますと思います。

もともと電力、ガスや水道などのインフラ事業は女性の比率が少なく、総務省の調査でも最低の14%ぐらいと言われていますが、我が社はもっと少なく、2015年に11%ぐらい。2020年にやっと最近になって13%と追いついてきたぐらいです。かねてよりダイバーシティを積極的に進め女性管理職層を育てることに取り組んできました。2020年には2014年の女性管理職数を倍増することを達成し、現在は2025年に3倍にすることを目標に取り組んでいます。最近では技術系女性の採用も倍増していますし、男性の育休取得も対象の約半分が取得しているくらい、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

## 1. キャリア奮戦

それでは、本論の私のキャリアのほうに話を進めていきたいと思います。

私の経歴ですが、中部電力の情報の採用ということで入社いたしまして、情報システム部に配属されました。

中部電力では、送電とか配電とか建築とか発電とか、技術系の採用を部門ごとにしていて、その後も採用された部門の仕事と大きく離れることは少ないです。

情報システム部も同じで、私も最初入ってからずっとITに関わる仕事をしてきました。主に設備の導入や自社の共通的な基盤となるシステム開発と、顧客管理システムの再開発プロジェクトというシステムを手掛けて、ここまでで27年。ここから先、現在の所属になるまでが7年。ほとんど情報システムの仕事をしてきました。

その後、システムの仕事から離れて、岐阜県各務原の営業所長、岐阜県全体を担当する営業部長として、電気を契約していただいているお客様と初めて、直接接する機会にも恵まれました。この頃から、自分が自社の女性のロールモデルであることを意識するようになりました。

会社生活の中では、山もあれば谷もありました。ここからは、私が仕事の中で何を感じてきたのかを紹介していきたいと思っています。

(略)

## 2. 大切にしていきたいこと

まとめとしまして、私が働く中で今後も大切にしていきたいことを幾つか上げます。

まずは自分のミッション、何を達成することを求められているのか、を捉えること。そして、自分にできること、できないことをしっかり理解し、周囲を巻き込んで一緒に仕事を進めること。コミュニケーションをとる際には、相手のレベルに合わせて分かりやすく話すこと、等々。ちゃんと話し合いができると、理解の促進や信頼関係につながります。

役職が上に行くと、世の中がどう変わっていくのか、相手は何を望んでいるのかのように、一歩先・二歩先を考えるとすることも大事です。そして働く仲間の働きやすさです。厳しいこともしっかり伝えなきゃいけないと思っています。

ただ、その中でもあっても、自分らしさは失わないでいたい。上司、同僚、部下、周りの協力会社、お客様に

助けられている自分であることも忘れたいと思います。仕事にしる、遊びにしる、社会の動きにしる、いろんなことに興味を持っていたいと思います。そうすることで更に自分も成長すると思っています。

会社に入ると、どうしても企業目線になってしまいがちです。会社にとって良いことを優先しがちになるのですが、それを自分自身が社会の一お客様として見たときにどう思うだろうという**お客さま目線**を忘れないことも大切にしていきたい。

最後に、皆さんがこれから社会に出て、リーダーやもっと上の役職になったときにどういうことを覚えていていただきたいかを幾つか上げてみます。

**仕事の早い人、遅い人もいるし、考え方も皆違う。**毎回同じやり方が正しいというわけじゃない。その場でいろんな人がいますが、何でもできる**スーパーマンはいない**。私も途中から、人に助けてもらうことによって、ここまで来ました。人によってできることとできないことを見極めながらやっていけばいいと思います。

**リーダーの種類はいろいろ。**よく周りを引っ張るリーダーシップのある人がリーダーと言われます。だけど私はそんなに自信はありませんでした。あの人ならリーダーとしてついていってもいいかなと思えるリーダーがいてもいい、と本に書いてあるのを読み、何か自分の心がほっとした。リーダーにもいろんな人がいます。

**報・連・相は自分から。**会社に入ると報連相しろと言われるのですが、それは大体部下の人が上の人に報告・連絡・相談をするという意味で使われます。クルマのトップセールスから代議士になられた林文子さんの言葉です。そうじゃなくて上司が部下のところに行って報告・連絡・相談をしてもいい。

いろんな**期待とか感謝とか褒める言葉を忘れないこと**。そういった言葉が、私の大きなモチベーションにつながりましたし、周りのみんなの元気につながったりもします。また、誰かが**悩みを向けて相談**してきたら、何かをする**リアクション**を見せてほしい。何か答えてくれようとしたという**姿勢**を見せるということがものすごく**信頼感**にもつながるし、大事だと思います。

そして最後に、**悪口は言わない**。さっき小島社長が**裏切らないこと**というようなお話もされましたけど、悪口を言わない。特にリーダーが悪口を言うことは、他の人への影響は思ったより大きいものです。

#### <閉会のご挨拶(司会)>

今回のセミナーにご支援いただいた全ての皆様に感謝申し上げます、2022年度のトップセミナーを終了いたします。皆様、最後までありがとうございました。(拍手)

今日のセミナーが、特に学生の皆さんにとって、将来、あの日あんなことを聞いてよかったということを思い出していただければ名古屋工業会としても大変うれしく思います。今日は本当にありがとうございました。



左から  
鶴桜会武藤会長、加川理事長、石川講師、  
小島講師、大鹿理事、仁科常務理事、  
川村監事、河邊学長補佐

写真 5. OB/OG 講師を囲む名工会関係者

**(所感：大鹿)**

お二人の講師のお話を聴かせていただいて、私も二十歳ころの学生時代、そして会社へ入って希望に満ちた新社会人時代の半世紀前を昨日のように思い出しました。小島様の“今の時間を大切にしてほしい”という心の底からのメッセージには、70歳を過ぎた私も全く共感いたしました。

石川様は、技術を磨くことと、周りの皆さんとのコミュニケーションの両輪を大切にすること。それを実体験から訴えられました。

紙面の都合で、小島様の身近な東海テレビの裏話や、石川様の生々しい奮戦を略させていただきました。業界は異なりますが、お二人の講師が共に仰っていたのが、一歩先を広く多角的に見ること、周りへの感謝を忘れず、人を裏切らないことと悪口を言わないことでした。

セミナー本番前の準備段階から、本原稿をまとめるまで、私からのお願いに快く対応いただいた講師のお二人には、改めて感謝いたします。

4年間にわたりトップセミナーを担当することができて光栄でした。学生の皆さんが自分の将来の展望を真剣に考えて行動しようという姿を横から拝見。司会や懇談会を通じて、セミナーの意義を肌で感じることができました。トップセミナーは「産業論」講義と共通となっていて、名工大と名古屋工業会が連携して成立しています。

大変革の時代ですが、学生の皆さんが、自らの頭で自分の進む道をじっくり考えて、失敗を恐れず、勇気を持って行動されることを祈ります。

昨年はオンライン機材トラブルによる失敗もありましたが、読者の皆様からのご意見を伺いながら、カイゼン出来てきたと思います。今後も就職支援/学生支援としての先輩セミナーが継続発展することをお祈りいたします。

卒業生、学生、名工大教職員、名古屋工業会ほか関係の皆様へ、大変お世話になりました。ありがとうございました。



写真6. 大鹿秀正 (YouTube から)

(OB/OG トップセミナー企画・司会担当)

1975年～2015年トヨタ自動車(株)

2021年～理工学部応用物理分野非常勤講師(産業論担当)